

The Emerging Market Weekly

国際為替部
マーケット・エコノミスト
佐々木 貴彦
03-3242-7065
takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周
03-3242-7065
amane.saito@mizuho-bk.co.jp

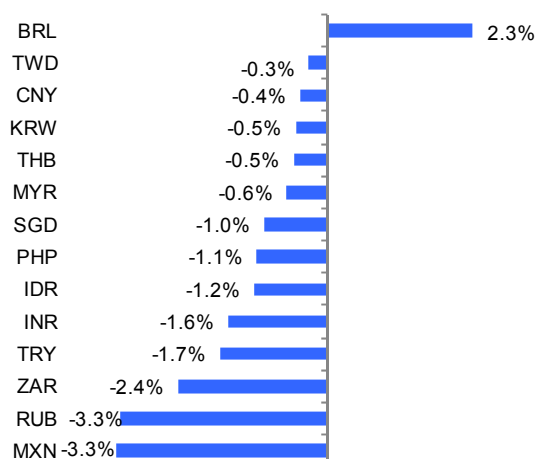
今週のエマージングマーケット

今週の新興国通貨は、英国の EU 離脱を受けて週末に急落

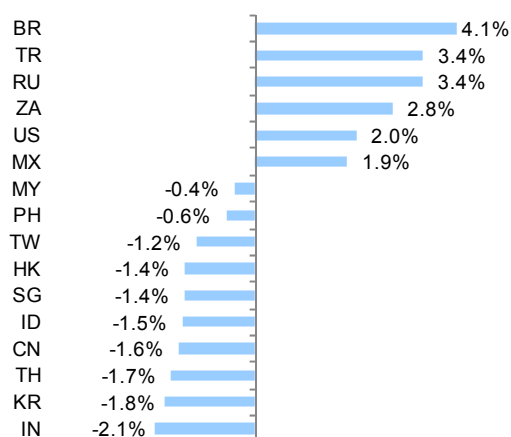
今週の新興国通貨は週末に急落した。先週 16 日に発生した英下院議員の殺害事件から英国の EU 離脱 (Brexit) を問う国民投票の世論調査で残留派が優勢となっていた。週初も EU 残留への期待は高まり続け、新興国通貨は上昇した。21 日は、ドラギ ECB 総裁の追加緩和を示唆する発言を背景に一時的にドルが強含むも、イエレン FRB 議長の議会証言では目新しい発言はなく、ドル高の動きは長続きせず、新興国通貨の下落幅は限定的となった。22 日以降は、国民投票が近づいたことで、動意に乏しい展開が続いたが、24 日に国民投票の結果が発表されていく中で、離脱派が優勢の結果が相次ぎ、新興国通貨は軒並み急落した。結局、その後も形勢は変わらず、新興国通貨は軟調な値動きを続けた。

個別通貨で見ると、Brexit への懸念をきっかけにリスク資産が売られる展開に、商品価格も連れ安となったため MXN (▲3.3%)、RUB (▲3.3%)、ZAR (▲2.4%)、が大きく値を下げた。また、INR (▲1.6%) については、ラジャン・インド中銀 (RBI) 総裁が予想外の退任を表明し、金融政策の先行きに対する懸念も下落要因となった。なお、BRL (+2.3%) は 24 日の国内市場オープン後に急落すると予想される。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数、CN: 中国上海総合指数、HK: 香港ハンセン指数、IN: インド SENSEX30 種指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、KR: 韓国総合株価指数、MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH: フィリピン総合指数、SG: シンガポール ST 指数、TW: 台湾加権指数、TH: タイ SET 指数、RU: ロシア RTS 指数、ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR: ブラジルボベスバ指数、MX: メキシコボルサ指数
通貨騰落率及び株式騰落率は 6 月 24 日 14 時 30 分頃の市場レートに基づく

(資料) ブルームバーグ

エマージングマーケット短期見通し

国民投票において Brexit が支持されたことで、値を崩す

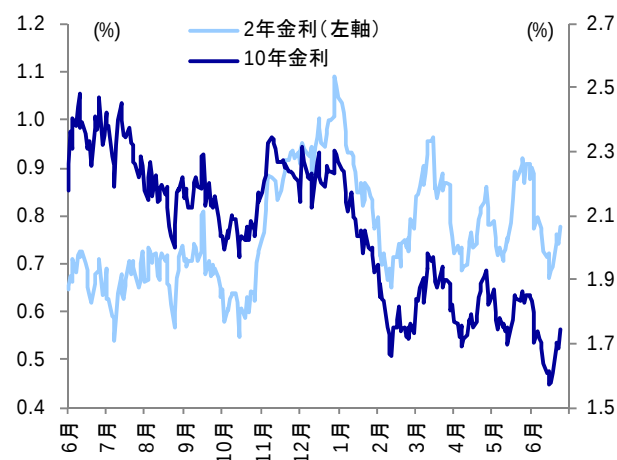
Brexit を受けて新興国通貨は軟調推移か

今週の新興国通貨は、先週末から Brexit を問う国民投票の世論調査で残留派が優勢となる結果が目立ち、週初から底堅い展開となった。21 日のイエレン議長の議会証言やドラギ総裁の発言による新興国通貨市場への影響が限定的となる中、週央においても買い優勢地合いは続いた。しかしながら、24 日に国民投票の開票が進むに連れて、離脱派が残留派を上回ることが明確になると、多くの新興国通貨が急落する展開となった。

英国の EU 残留を織り込んでいた市場参加者にとって予想外となる Brexit の支持を受けて、来週の新興国通貨は大きく値を下げる動きになるだろう。中でも下落幅が大きいと考えられるのは経常赤字国の通貨である。こうした国々は、高水準の対外債務を抱えているケースが多く、金融危機が発生すると、外貨資金の調達懸念が高まり、通貨も売り優勢の展開となる。実際、リーマンショックを含む 2008 年以降の金融危機において、通貨の売り幅は経常黒字国の通貨よりも大きくなっていった。

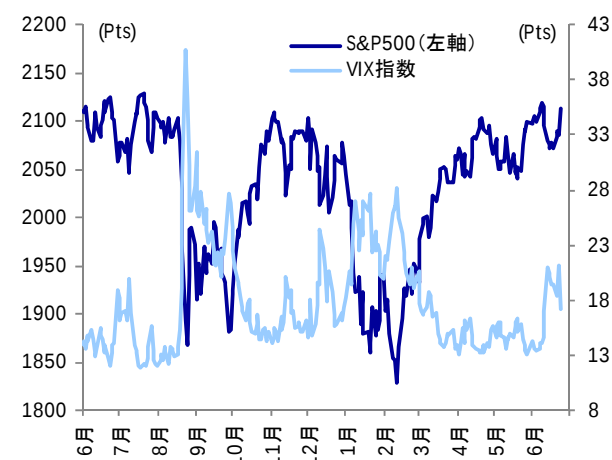
しかしながら、各々の危機について新興国通貨の値動きを比べると、危機後に下落が続く場合と、危機発生にも拘わらず、ほぼ横這いの値動きに止まる場合に二分される。両者を分けているのは、その時の米金融政策だと言えよう。売り幅が拡大しなかった 2010 年の欧州債務危機と 2012 年のギリシャ危機時は、いずれも FRB は量的緩和策が実行中、ないしは危機後に実行されたため、ドル売り優勢の局面であった。今回も、米利上げ姿勢の後退によるドル安局面であることに鑑みれば、直後こそ急落する通貨が散見されたとしても、その後は売り圧力が一巡し、落ち着きを取り戻してくだろう。イエレン議長は Brexit への懸念が 6 月 FOMC における政策金利の据え置きに繋がったと述べており、Brexit 後は利上げ姿勢を後退させる可能性が高いことも、新興国通貨売り圧力の緩和に貢献すると考える。

図表 1: 米国債利回りの推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ

図表 2: 米株と VIX 指数の推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ

エマージングマーケット:国別の注目材料

インド: ラジャン RBI 総裁は退任へ

ラジャン総裁は1期3年で退任すると発表

再び顕在化する BJP 及び支持団体の宗教色の強さ

BJP の宗教色の強まりは今後の政治リスクに

18日にラジャン・インド準備銀行（RBI、中央銀行）総裁は、任期満了となる9月4日での退任を表明した。同氏は2013年9月の就任以降、インフレターゲットの導入や積極的な金融緩和などを行い、足許では国内金融機関の不良債権処理に取り組むなど、インド経済の成長を金融面から後押ししてきた。同氏に対する市場の信頼は厚く、また続投するとの予想が多数派であったため、退任発表後は今後の金融政策に対する不透明感の高まりからルピー相場は67ちょうど近辺から一時67台後半まで下落した。

退任の背景には、同氏による「経済発展のためには（他者に対する）寛容さと敬意が欠かせない」との総裁の枠を超えた政治的な発言に対するインド人民党（BJP、政府与党）内や支持団体である民族義勇団（RSS）からの強い反発がある。BJP 内や RSS ではヒンドゥー教至上主義に基づく閉鎖的な経済・政治観が強く、ラジャン総裁の開放的な経済観とは相容れないものがあつた模様だ。総裁後任には RBI のパテル副総裁や財務相のスプラマニアン主席経済顧問などの名前が取り沙汰されているが、夏頃には RBI における金融政策委員会の発足も予定されており、従来は単独でも金融政策の決定が可能だった総裁の権限は、これまでに比べて縮小すると見られる。また、ラジャン総裁による金融政策への不満は目立っており、後任が誰になると RBI の大幅な政策変更は見込みがたい。

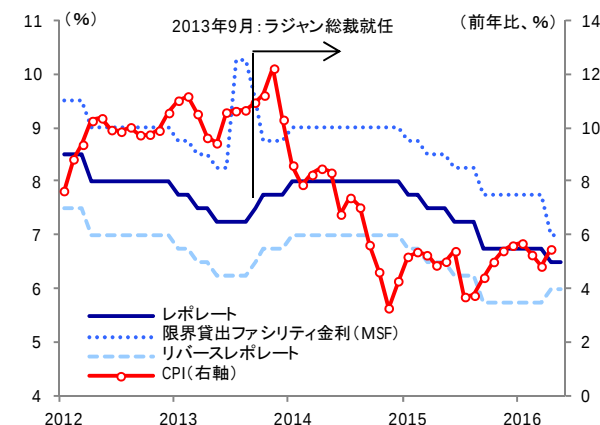
むしろ、この混乱で意識されるのは BJP と RSS のヒンドゥー教至上主義の根強さである。2015年11月のビハール州選挙では BJP 幹部の宗教差別的な発言が与党敗北に繋がったため、その後の選挙戦で BJP は経済政策への取り組みを強調する方針に転じた。モディ政権は2017年4月の物品・サービス税（GST）導入を目指しており、法案成立のためには地方政党との連携が欠かせない。そうした中、BJP の宗教的な主張が再び強まれば、地方政党との連携に水を差すリスクも考えられる。BJP 及び RSS のヒンド

図表3: インド準備銀行 次期総裁候補

役職等	氏名
RBI副総裁	ウルジット・パテル氏
財務相主席経済顧問	アルビンド・スプラマニアン氏
インドステイト銀行会長	アルンダティ・バッタチャリヤ氏
政府要職を歴任	ビジェイ・ケルカー氏
元財務相、競争委員会元委員長	アショーク・チャウラ氏

（資料）各種報道、みずほ銀行

図表4: インド 政策金利と消費者物価指数(CPI)



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

ウー教至上主義は多民族国家インドにおける政治リスクとして留意が必要となっている。

メキシコ：金融政策決定会合レビュー

MXN の更なる下落を阻止するために、BOM は利上げか

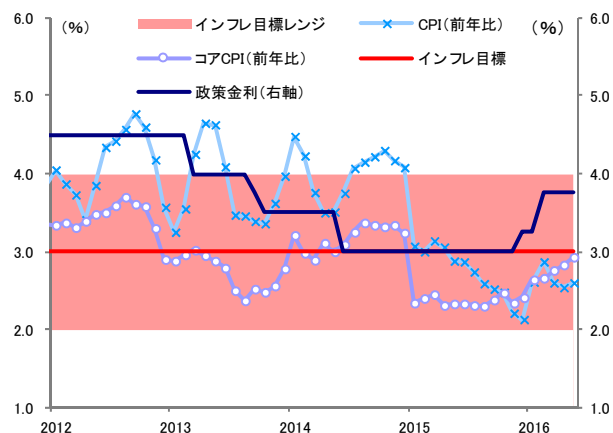
30 日（木）に開催されるメキシコ中銀（BOM）の金融政策決定会合では政策金利が 25bp 引き上げられ、4.00%になると予想する。前回会合（5 月 5 日）で BOM は政策金利の据え置きを決定した。声明文も前回会合（3 月 18 日）時から大きな変更はなく、MXN 安に起因するインフレリスクに注視していくと述べた。会合後の 6 月 9 日に発表されたメキシコ 5 月消費者物価指数（CPI）は前年比+2.6%と 4 月（同+2.5%）から僅かに加速したものの、依然として BOM の目標とする+3%を下回っており、物価動向から見ると利上げを急ぐ必要性は低い。また、15 日の FOMC では政策金利が据え置かれており、米国との金利差縮小に伴う資本流出が懸念される状況ではない。しかし、Brexit を問う国民投票に対する懸念を背景に MXN は、今年の最安値近辺まで一時売り込まれるなど不安定な動きが続いている。MXN の底堅さを取り戻し、輸入物価上昇を通じたインフレ圧力の高まりを防ぐために、BOM は今回で利上げを実施するだろう。

ロシア：景気回復の動きが続く

今後は生産回復の動きが消費にも波及する見込み

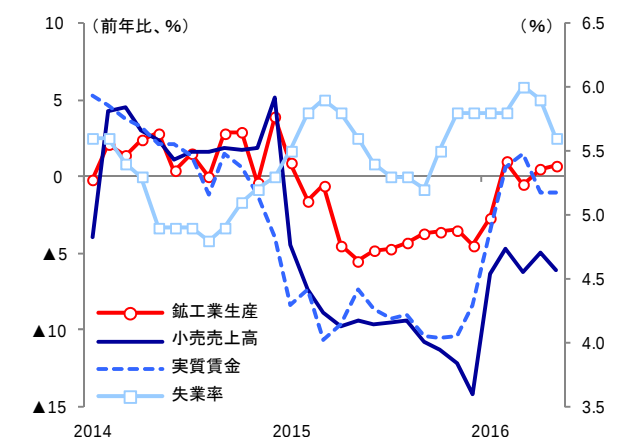
20 日に発表されたロシア 5 月雇用関連統計では、失業率が 5.6%（4 月：5.9%、市場予想：5.8%）、実質賃金は前年比▲1.0%（4 月：同▲1.1%、市場予想：同▲1.9%）と前月から改善した上、市場予想も上回る良好な結果となった。背景には 5 月鉱工業生産が 2 か月連続の前年比プラスとなるなど、年明け以降の原油価格上昇による生産活動の回復がある模様だ。同時に発表された 5 月実質小売売上高は前年比▲6.1%（4 月：同▲4.9%）と、2015 年 12 月（同▲14.1%）の落ち込みからは回復しているものの、力強さに欠けている。もっとも、今後は原油価格が堅調な推移を続ける中

図表 5：メキシコ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 6：ロシア 鉱工業生産・小売売上高・実質賃金・失業率



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

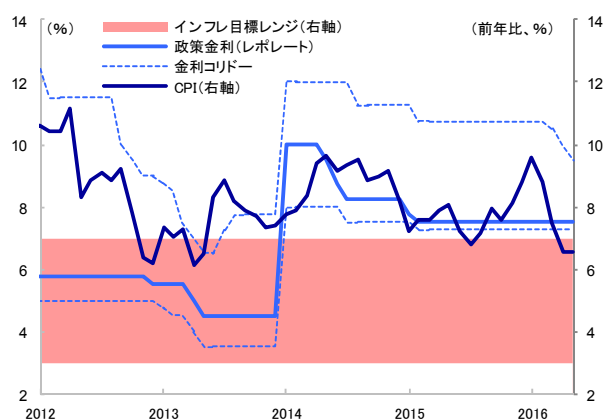
で、生産活動の回復も続き、雇用も改善することで消費は押し上げられていくだろう。なお、生産回復後に消費が拡大することは、輸出に比べて輸入の増加が遅行することに繋がるため、貿易収支の改善を通して当面の通貨高要因になると考えられる。

トルコ：金融政策決定会合レビュー

CBRT は 4 会合連続で金利コリドーの上限を引き下げ

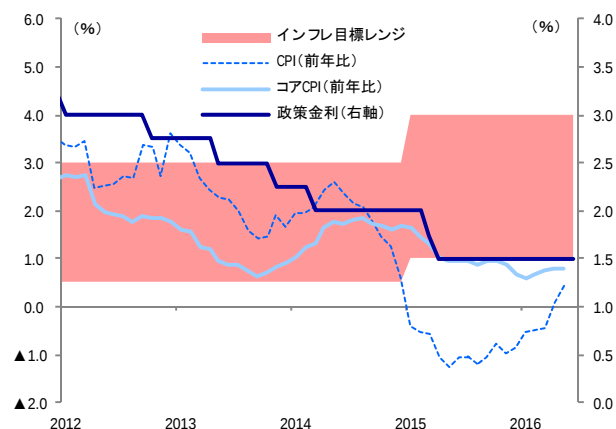
21 日に開催されたトルコ中銀（CBRT）の金融政策決定会合では、政策金利であるレポレートが 7.50%、金利コリドーの下限である翌日物借入金利は 7.25% に据え置かれる一方、金利コリドーの上限である翌日物貸出金利が 50bp 引き下げられ 9.00% となった。その結果、コリドーは 2.25% ポイントから 1.75% ポイントに縮小している。金利コリドーの上限引き下げは 4 会合連続であり、チェティンカヤ CBRT 総裁就任後では 3 会合連続となる。声明文は前回会合（5 月 24 日）とほぼ同様の内容だったものの、従来は変化が見られないとしてきたコアインフレについて、低下トレンドに入りつつあるとした。今回のコリドー上限の引き下げは、インフレ見通しの改善が背景にある模様だ。しかしながら、CPI（5 月：前年比+6.6%）は CBRT のインフレターゲット（+3%～7%）上限近くで推移しており、減速したといってもコア CPI は依然として高水準（5 月：同+8.8%）にあるため、実質的な政策金利である金利コリドー上限を連続して引き下げるのは、物価から見ると整合性がないと考えられる。それでも CBRT が引き下げを続けるのは、成長促進路線を採るエルドラン大統領への配慮があるのだろう。CBRT は、政治圧力を背景に今後も金利コリドー上限の引き下げを継続する見込みだ。

図表 7：トルコ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 8：タイ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

タイ：金融政策決定会合レビュー

BOT は 9 会合連続で政策金利を据え置き

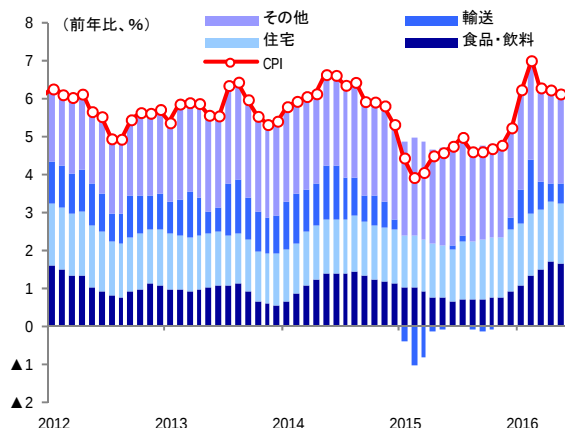
22 日に開催された金融政策決定会合にて、タイ中銀（BOT）は市場予想通り 9 会合連続で政策金利を 1.50% に据え置いた。声明文では、景気認識について、政府支出の拡大や観光業の回復及び個人消費の持ち直しを背景に緩やかな回復基調にあるとした。また、景気の下振れ要因として挙げられていた干ばつは、悪影響が小さくなりつつあると懸念を後退させた。一方で、貿易相手国の景気回復が予想以上に遅れることや、消費者信頼感の更なる低迷がタイ経済の下振れリスクとして引き続き指摘された。なお、インフレ率については上昇基調になるとの見方が維持されたが、2016 年後半には CPI の上昇が一巡し、インフレターゲット（+1.0%～4.0%）内に収まるとしており、BOT の物価上昇に対する懸念は高くない様だ。BOT は緩和的な姿勢を維持するとしているが、政策金利が過去最低の 1.25% に近付き、また家計債務も高水準にある中、政策金利を当面据え置くと予想する。なお、今回の会合では輸出が低迷していることを踏まえ、2016 年の輸出の見通しを前年比▲2.0%から同▲2.5%に下方修正した。

南アフリカ：インフレ率は安定の兆し

インフレ安定を受けて SARB は政策金利据え置きへ

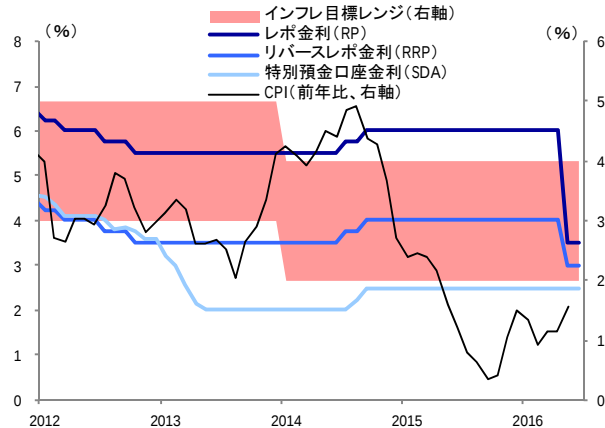
22 日に発表された南ア 5 月 CPI は前年比+6.1%と 2 か月連続で減速し、市場予想（同+6.4%）を下回る良好な結果となった。内訳を見ると、飲食料品が同+10.5%と 4 月（同+11.0%）から 6 か月ぶりに伸び率が縮小したほか、アルコール・たばこ（4 月：同+5.9%→5 月：同 5.4%）も 3 か月連続で減速している。このほか健康や通信をはじめとして殆どの項目がインフレ率低下に寄与した。南アフリカ準備銀行（SARB）はインフレ率の高まりを背景に、2016 年に入って計 75bp の利上げを実施したが、直近の会合では景気低迷に配慮する格好で政策金利を据え置いている。また、5 月 19 日に開催された金融政策決定会合の声明文では、食品価格の上昇による

図表 9：南アフリカ 消費者物価指数(CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 10：フィリピン 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

(注)金利コリドーの上限がレポ金利、下限が特別預金口座金利

短期的なインフレ加速への懸念が示されていた。足許で景気回復の動きが見られない中、食品を中心にインフレ率は安定しており、現時点では次回会合（7月21日）でSARBが現状政策を据え置く可能性が高いだろう。

フィリピン：金融政策決定会合レビュー

BSPは政策金利を据え置き

23日に開催されたフィリピン中銀（BSP）の金融政策決定会合では、政策金利の翌日物借入（RRR）金利が3.00%に据え置かれた。また、金利コリドーの下限である特別預金（SDA）金利も2.50%に、金利コリドーの上限である翌日物貸出（RP）金利も3.50%に据え置かれたため、コリドーは1.00%ポイントで維持された。BSPは声明文において、引き続き政府の拡張的な財政支出などを背景に国内需要は底堅く、インフレも安定しているため、今回は政策金利を据え置いたと述べた。また、最新の物価見通しも発表され、2016年は前年比+2.0%、2017年は同+3.1%、2018年については同+2.6%と、当分の間BSPのターゲット（+2.0%～4.0%）内に収まる見込みであることが示された。堅調な国内経済とインフレ率の安定を背景に、BSPは金融政策を維持し続けると予想する。なお、BSPはBrexitを強く警戒しており、離脱してしまった場合に備えて、必要な処置を講じているとした。

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
6月17日 (金)	シンガポール	5月 非石油地場輸出(前年比)	-1.6%	11.6%	-7.9%	--
20日 (月)	フィリピン	5月 総合国際収支	--	\$241m	\$184m	--
22日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	1.50%	1.50%	1.50%	--
23日 (木)	シンガポール	5月 消費者物価指数(前年比)	-0.8%	-1.6%	-0.5%	--
23日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金金利	3.00%	3.00%	3.00%	--
23日 (木)	フィリピン	BSP特別預金口座金利	2.50%	2.50%	2.50%	--
24日 (金)	シンガポール	5月 鉱工業生産(前年比)	1.0%	--	2.9%	--
24日 (金)	タイ	5月 貿易収支(通関ベース)	\$2434m	--	\$721m	--
28日 (火)	韓国	6月 消費者信頼感	--	--	99	--
30日 (木)	韓国	5月 鉱工業生産(前年比)	--	--	-2.8%	--
30日 (木)	タイ	5月 国際収支:経常収支	--	--	\$3164m	--
30日 (木)	中国	5月 SWIFT クロソール支払(人民元、割合)	--	--	1.8%	--
30日 (木)	台湾	6月 CBC指標金利	--	--	1.5%	--
30日 (木)	マレーシア	5月 マネーサプライM3(前年比)	--	--	1.5%	--
30日 (木)	インドネシア	5月 マネーサプライM2(前年比)	--	--	7.1%	--
7月1日 (金)	韓国	6月 消費者物価指数(前年比)	--	--	0.8%	--
1日 (金)	韓国	5月 国際収支:経常収支	--	--	\$3371.7m	--
1日 (金)	韓国	6月 貿易収支	--	--	\$7082m	--
1日 (金)	中国	6月 製造業PMI	50.1	--	50.1	--
1日 (金)	中国	6月 非製造業PMI	--	--	53.1	--
1日 (金)	中国	6月 Caixin中国PMI製造業	49.2	--	49.2	--
1日 (金)	マレーシア	5月 貿易収支MYR	--	--	9.06b	--
1日 (金)	インドネシア	6月 消費者物価指数(前年比)	--	--	3.3%	--
1日 (金)	タイ	6月 消費者物価指数(前年比)	--	--	0.5%	--
中東欧・アフリカ						
6月20日 (月)	ロシア	5月 実質小売売上高(前年比)	-4.8%	-6.1%	-4.8%	-4.9%
21日 (火)	トルコ	指標レート	7.50%	7.50%	7.50%	--
21日 (火)	トルコ	翌日物貸出金利	9.00%	9.00%	9.50%	--
21日 (火)	トルコ	翌日物借入金金利	7.25%	7.25%	7.25%	--
22日 (水)	トルコ	6月 消費者信頼感指数	--	69.4	68.8	--
22日 (水)	南アフリカ	5月 消費者物価指数(前年比)	6.4%	6.1%	6.2%	--
24日 (金)	トルコ	6月 経済信頼感	--	--	82.3	--
30日 (木)	南アフリカ	5月 マネーサプライM3(前年比)	--	--	9.0%	--
30日 (木)	南アフリカ	5月 貿易収支(ラント)	--	--	0.4b	--
1日 (金)	ロシア	1Q 経常収支	--	--	11700m	--
1~4日	ロシア	1Q GDP(前年比)	--	--	-1.2%	--
ラテンアメリカ						
6月21日 (火)	ブラジル	6月 IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	9.1%	9.0%	9.6%	--
23日 (木)	メキシコ	4月 経済活動IGAE(前年比)	3.2%	3.0%	1.2%	--
24日 (金)	メキシコ	4月 小売売上高(前月比)	-0.6%	--	3.0%	--
24日 (金)	ブラジル	5月 経常収支	\$1600m	--	\$412m	--
27日 (月)	ブラジル	6月 FGV消費者信頼感	--	--	67.9	--
7月1日 (金)	ブラジル	5月 鉱工業生産(前年比)	--	--	-7.2%	--
1日 (金)	メキシコ	6月 IMEF製造業指数(季調済)	--	--	51.9	--
1日 (金)	メキシコ	6月 IMEF非製造業指数(季調済)	--	--	51.3	--
1日 (金)	メキシコ	5月 送金総額	--	--	\$2173.4m	--

(注)2016年6月24日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2016年 1～5月（実績）	SPOT	2016年 6月	9月	12月	2017年 3月	6月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.4528 ～ 6.5962	6.6156	6.55	6.52	6.48	6.45	6.42
香港ドル	(HKD)	7.7488 ～ 7.8295	7.7618	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	66.071 ～ 68.789	68.140	68.0	66.5	64.5	63.5	62.0
インドネシアルピア	(IDR)	12984 ～ 14002	13482	13600	13300	13000	12850	12500
韓国ウォン	(KRW)	1128.43 ～ 1245.13	1179.07	1190	1210	1190	1170	1150
マレーシアリング	(MYR)	3.8442 ～ 4.4415	4.1255	4.10	4.05	3.90	3.87	3.85
フィリピンペソ	(PHP)	45.900 ～ 48.069	46.970	47.0	46.4	45.7	44.8	43.9
シンガポールドル	(SGD)	1.3352 ～ 1.4444	1.3629	1.38	1.36	1.35	1.33	1.32
台湾ドル	(TWD)	32.150 ～ 33.791	32.472	32.70	33.10	32.70	32.30	31.90
タイバーツ	(THB)	35.65 ～ 36.42	35.45	35.9	35.6	34.9	34.7	34.5
ベトナムドン	(VND)	22059 ～ 22563	22333	22400	22300	22300	22400	22150
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	63.9923 ～ 85.9573	66.8825	65.00	63.00	60.00	63.00	63.00
南アフリカランド	(ZAR)	14.1152 ～ 17.9169	15.5054	16.00	16.50	16.50	17.00	17.00
トルコリラ	(TRY)	2.7901 ～ 3.0614	2.9766	2.90	3.10	3.30	3.40	3.50
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	3.4294 ～ 4.1720	3.3376	3.55	3.64	3.70	3.71	3.74
メキシコペソ	(MXN)	17.0507 ～ 19.4448	19.4504	18.40	18.40	18.20	17.90	17.60
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	16.308 ～ 18.563	15.356	16.79	16.56	16.36	16.12	15.89
香港ドル	(HKD)	13.604 ～ 15.615	13.088	14.18	13.92	13.66	13.40	13.14
インドルピー	(INR)	1.591 ～ 1.823	1.491	1.62	1.62	1.64	1.64	1.65
インドネシアルピア	(100IDR)	0.798 ～ 0.896	0.754	0.809	0.812	0.815	0.809	0.816
韓国ウォン	(100KRW)	8.990 ～ 10.267	8.616	9.24	8.93	8.91	8.89	8.87
マレーシアリング	(MYR)	26.326 ～ 29.357	24.624	26.83	26.67	27.18	26.87	26.49
フィリピンペソ	(PHP)	2.250 ～ 2.570	2.162	2.34	2.33	2.32	2.32	2.32
シンガポールドル	(SGD)	78.19 ～ 85.54	74.54	79.71	79.41	78.52	78.20	77.27
台湾ドル	(TWD)	3.279 ～ 3.671	3.129	3.36	3.26	3.24	3.22	3.20
タイバーツ	(THB)	3.026 ～ 3.412	2.866	3.06	3.03	3.04	3.00	2.96
ベトナムドン	(100VND)	0.4737 ～ 0.5482	0.4546	0.49	0.48	0.48	0.46	0.46
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.359 ～ 1.718	1.518	1.69	1.71	1.77	1.65	1.62
南アフリカランド	(ZAR)	6.525 ～ 7.805	6.551	6.88	6.55	6.42	6.12	6.00
トルコリラ	(TRY)	35.914 ～ 41.265	34.121	37.93	34.84	32.12	30.59	29.14
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	27.727 ～ 31.825	30.431	30.99	29.67	28.65	28.03	27.27
メキシコペソ	(MXN)	5.765 ～ 7.018	5.223	5.98	5.87	5.82	5.81	5.80

(注)1. 実績の欄は5月31日まで。SPOTは6月24日の14時20分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。
(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。